

- 1 日時 令和7年11月〇日(〇) 第〇校時
- 2 学年 第4学年〇組
- 3 単元名 「〇〇環境プロジェクト」【未来の環境を考えるために中工場とつながる】
- 4 単元について

目標

中工場の未来の環境を守ろうとする仕組みや考えを見つけ、環境を守る取組を通して、環境破壊を引き起こすのも防ぐのも人の手であることを理解し、それらを防いだり、改善したりするために努力している人がいることに気づき、環境を守る取組を通して環境破壊を防ぐために自分にできることを考え、自分自身が行動に移したり、その具体を発信したりすることができるようにする。

目指す子供の姿

- 〇 中工場の未来の環境を守ろうとする仕組みや考えを見付けることを通して、環境破壊を引き起こすのも、防ぐのも人の手であることを知るとともに、一人一人の環境保全を意識した行動が環境破壊を防ぐ一歩となることを理解している。
- 〇 中工場の未来の環境を守ろうとする仕組みや考え、環境破壊と自分たちの暮らしとのつながりを伝え、環境を守るために、必要な情報を収集し、根拠に基づいて整理・分析して課題を解決する方法を考え、それを効果的に発信している。
- 〇 自分が未来の環境を守る担い手として、環境を守るためにできることを考えて実践したり、その具体を発信したりしようとしている。

現在の子供の姿

昨年度の4年生から、環境破壊の実態や問題点、自分たちにできることについて話を聞いたり、中工場が環境を守る設計になっていることを知ったりしたことをきっかけに、未来の環境を守るために自分たちは何かできないかという思いを抱いている。

児童アンケートでは、「分別している」と答えた児童が75%であった。一方で、分別についての理解が不十分であったり、そもそも分別を行おうとしていなかったりする児童がいた。「リサイクルしていますか」については、「している」と回答したのは58%。その他は「していない」という回答だった。リサイクルという言葉は知っていても実際にリサイクルをしている児童はそこまで多くない。また、リサイクルがそもそも何のことなのかについての理解も不十分であることが分かった。「使わなくなったものを他の人に譲ったりリサイクルショップに持って行ったりしていますか」については、「していない」という回答は30%であり、ごみを出さないように日頃から工夫していないことが実態である。「地球が悲しまないように何かしていることはありますか」という項目では、「お菓子の空き箱を凶工で使う」「給食を残さない等、ごみを出さないようにしている」「電気や水を大切にしている」「壊れたら新しいものを買わず修理する」等、多様な視点でごみを減らそうとしていることが分かった。しかし、これらの取組がなぜ大切なのかを問われると、はっきりとした回答ができる児童はほとんどいなかった。実際にどのような環境破壊が起きて、どう自分たちに影響があるのかについても理解は不十分である。本単元の学習が始まってからは、あらゆる環境問題の実態を「自分の生活とのつながり」という観点で調べたり、考えたりしている。実際に残食量を調べたり、教室内のごみ箱の分別状況を細かに確認したりと児童それぞれがインターネットで調べたことを確かめようと努力している。ごみを減らすことが未来の環境を守ることにつながり、実践していきたいという意欲が育ってきている。

単元の価値

〇〇学区内に位置する中工場は「日本一美しいごみ工場」と言われている。中工場には、「①建築デザインとコンセプト」「②市民への教育機能」「③立地と景観への配慮」「④最新技術の採用」「⑤観光地

としての役割」等、様々な魅力がある。この魅力の背景には「持続可能な未来の実現」という建築家の思いや願いがある。この思いや願いに迫っていく中で、中工場が未来の環境を守るための施設だということに気付くことができる。

また、「本気で未来の環境を守ろうとしている人がいるんだな」という思いや「どうしてそこまでして環境を守る必要があるのか」という問いにも自然と出会うことができ、環境問題の実態を調べる動機付けにもつながっていく。環境問題の実態調査では、給食の残食量やポイ捨てチェック、農家の方の実際の困りごとや企業に対して環境保全対策のインタビュー等を行い、危機感や課題性をより感じることができるようにする。その中で、自分たちとの生活とのつながりを明確にすることで、児童の主体性にもつながるようにする。

また、中工場の環境を守る施設としての魅力や環境問題の現実を知る中で、中工場や環境問題に対するインタビューを行っていく。自分たちは「なんとかしなくては」と思っているが、そう思っていない児童もたくさんいる。その思いのズレを感じさせることで「自分たちにできることは何か」という問いに出合えるようにしている。その問いについて考え続けることで、未来の環境を守っていこうとする自覚や態度を養っていきけるようにする。

また、学校ブックオフプロジェクト等の体験活動を通して、ごみを出さないために必要な工夫や考え方を知ること、「ごみ」に対する概念を捉え直したり、ごみ削減のために活動している人がいることに気付いたりすることができる。そうした中で、環境保全について自分のくらし方はどうなのか自分自身に問うことで、自分の生き方や考え方を捉えなおし環境を守り続けていこうとする姿勢や態度を養っていきたい。

働きかけ・環境設定

社会科「わたしたちのくらしとごみ」の単元をきっかけに、ごみについての基礎的・基本的な知識を学んでいく。そのまとめとして、安佐北工場と中工場の2か所へ見学に行った。この時点では、社会科学習の一環として見学に行き、それと同時進行で、総合的な学習の時間を進めてきた。総合的な学習の時間の導入では、より環境に意識を向けられるように泣いている地球のイラストを使った。（児童の実態として、イラストから入ったほうが効果的だと感じたからである。）中工場を調べる際には、現地見学、動画、パンフレット等を準備し、未来の環境を守る施設としての魅力を十分に感じることができるようにしている。また、学校ブックオフプロジェクトに取り組んだり、ごみ削減に関する本を教室に常備したりすることで、環境保全の具体や必要性を主体的に調べることができるようにする。

一般の方とも関わる機会を設け、未来の環境を守るために行動している人の実態を肌で感じられるようにしている。そこから「未来の環境を守るには」という課題に出合わせる。中工場の魅力や秘密を伝えるための環境ワールドカフェを企画したり、学校のHP、SNSなどを使ったりして発信していく。それらを繰り返す中で、未来の環境を守るために自分たちができることは何なのかを問い続け、自らの生き方に生かせる考えを養っていくようにする。

つながる学び

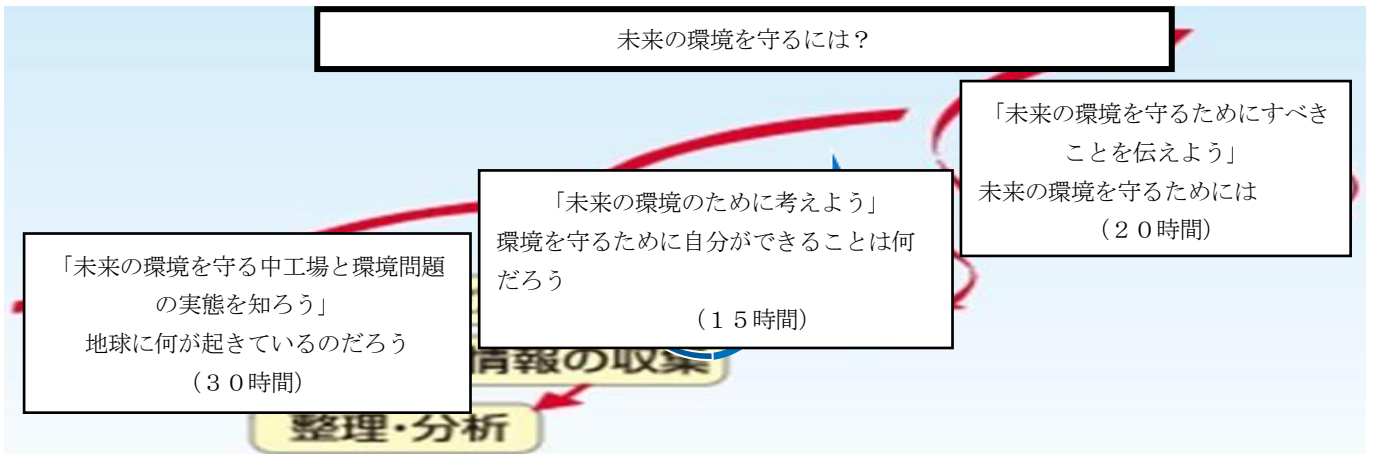
社会科「わたしたちのくらしとごみ」では、ごみに関する基本的な知識を身に付けることで、環境保全に対する価値ある問いをもてるようにしたい。情報を収集したり、データ化したりする場面では、算数科「折れ線グラフと表」や国語科「新聞を作ろう/【コラム】アンケート調査の仕方」の学習内容を生かし、目的に応じてアンケートを取ったり、集めた結果をデータ化したり、データを読み取ったりすることができるようにしたい。整理・分析等、話し合いをする場面では、国語科「クラスみんなで決めるには」の学習内容を生かし、目的の確認、提案、意見、まとめる等、見通しをもってスムーズな話し合いができるようにしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○ 中工場の未来の環境を守ろうとする仕組み・考えを見付けることを通して、環境破壊を引き起こすのも防ぐのも人の手であることを知るとともに、一人一人の環境保全を意識した行動が環境破壊を防ぐ一歩となることを理解している。</p>	<p>○ 中工場の未来の環境を守ろうとする仕組み・考え、環境破壊と自分たちの暮らしとのつながりを伝え、環境を守るために、必要な情報を収集し、根拠に基づいて整理・分析して課題を解決する方法を考え、それを効果的に発信している。</p>	<p>○ 未来の環境を守る担い手として、環境を守るために自分にできることを考えて実践したり、その具体を発信したりしようとしている。</p>
<p>① 環境破壊を引き起こすのも防ぐのも人であることを知り、一人一人が環境保全を意識して行動することが環境破壊を防ぐことにつながることを理解している。</p> <p>② 中工場の未来の環境を守る仕組みや考え、環境保全に関する必要な情報や意識を調査するために調査対象・項目に応じた方法でアンケートやインタビューを行っている。</p> <p>③ 一人一人が環境保全を意識して行動することが環境破壊を防ぐことにつながることへの理解は、環境問題を防ぐことを探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>① 環境破壊を多角的な視点で調べることから「環境破壊が続いている」という課題を設定し、自分たちが何をすれば解決できるのか見通しをもち計画を立てている。</p> <p>② 環境破壊を守るために必要となる情報を得る場面において、「何のために」「何を調べるのか」「どのようにして調べるのか」等を明確にしている。</p> <p>③ 環境保全の取組方法について「実現可能か」「効果的か」等の視点を結び付けて取組内容の根拠を見出している。</p> <p>④ 環境保全に向けての活動を通して自分の思いや自己の成長・変容を生かして、デザインに工夫を凝らしながら効果的に伝えている。</p>	<p>① 環境を守るために自分の生活を見つめ直したり、環境を守ろうとしている人々の思いや立場に目を向けたりしながら、環境を守ることに対する自分なりの思いや役割を考えようとしている。</p> <p>② 環境を守るために自分にできることを考え、仲間と協力して課題を追求したり、企画を進めたりする中で、必要な行動を自ら提案したり、積極的に参加したりしようとしている。</p> <p>③ 自分の行動が環境を守ることにつながることに気付き、環境保全の具体的な取組を周囲に発信したり、家庭や地域で実践したりすることで、環境を守る担い手として社会に関わろうとしている。</p>
<p>出会う学びの財・環境（ひと・もの・こと）</p>		
<p>中工場職員 谷口吉生さん 他学年児童 地域の人々 吉田悦子さん（広島大学 講師） 中工場 谷口設計事務所 環境ワールドカフェ 学校ブックオフプロジェクト</p>		

6 指導と評価の計画（全70時間）

探究の過程の構想





	小単元1 未来の環境を守る中工場と環境問題の実態を知ろう	小単元2 未来の環境のために考えよう	小単元3 未来の環境を守るためにすべきことを伝えよう
課題の設定	地球が悲しんでいる原因を調べ、このままでは地球の存続の危機であることに課題を抱く。(思①) (1 h)	環境を守るために自分たちにできることは何かという問いを立てる。(思①) (1 h)	自分の生活や考え方に変容が生まれたのかを振り返り、未来の環境を守るためにどのような暮らしをしていけばよいのかという問いを立てる。(主①・知①) (1/2 h)
情報の収集	中工場の環境を守るための工夫や考え、環境問題の実態・関心の度合いについて調べる。(知②) (14 h)	環境保全の取組について、個人・家庭・地域・学校でできることを調べる。(思②) (6 h)	現在の自分たちの暮らしに何が足りないのか、未来の環境を守るために必要なことを調べる。(知②) (4 h)
整理・分析	調べた内容を「何が起きているのか」「自分とどう関わりがあるのか」「今後どうなるのか」等に分類する。(知②) (5 h)	環境保全の取組について「できそうなこと」「広がりそうなこと」「効果があること」等の観点で取組内容を考えている。(主②) (4 h)	自分の暮らしの中で、自分たちが「変えられること」と「変えたくないこと」、「自分ができること」と「みんなのできること」という視点で整理・分類する。(思③) (4 h)
まとめ・表現	環境問題の実態や関心の度合い、そこから生まれた自分たちの思いや願いについて新聞やスライドにまとめ、校内児童に伝えることができる。(知①) (10 h)	環境問題の実態や関心の度合い、そこから生まれた思いや願いをもとに、自分たちが取り組んでいることや取り組んでほしいことを他校の児童に伝えることができる。(思④) (4 h)	環境を守ることにつながる暮らしをスライドにまとめ、他校の児童や一般の人々に伝えることができる。(知③・主③) (10 h)

7 本時の目標

環境を守るために自分の生活を見つめ直し、環境を守ることに對する自分なりの思いや役割を考えることができる。【主体的に学習に取り組む態度①】

8 本時の学習展開

	学習活動	働きかけ（目指す子供の姿のために）
事前	0 次時に向けての問いを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> これまでの取り組みを通して、自分の考えや行動がどう変わったのだろうか </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本時の見どころ ★事前学習による問いに対する自分なりの考えの確認 </div>
	1 問いを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> これまでの取り組みを通して、自分の考えや行動がどう変わったのだろうか </div>	
本時	2 自分のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> これまで学習を続けてきて環境を守ることに對して考え方が大きく変わりました。友達の話も聞いて、自分が気付いていない変化に気付けるといいなと思います。 </div>	
	3 これまでの取組を通して自分の考えがどう変化したのか話し合い、これからどうすべきか話し合う。 (グループ・全体) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 最初のごみが出て当たり前だと思っていたけど、今はごみを出す前にできることを考えるようになりました。買い物や使い方が慎重になったし、本当に買うべきか考えるようになりました。 </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的に沿った話し合いやおたずねができているグループを価値付ける。 ○ 友達の意見を自分の意見、考え、経験とつなげて考えられている児童を価値づける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本時の見どころ ★意見交流による思考の深まり。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の変容に気付くために「過去・現在・未来」の視点での自分の姿をノートに整理させておく。
	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学校ブックオフプロジェクトで行った「捨てずに生かす」ことの意味がよく分かりました。今までは使っていたおもちゃも普通に捨てていただけ、リサイクルショップに持って行ったり、知り合いに譲ったりするようになりました。 </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ごみを減らすことが環境を守ることにつながることがよく分かりました。今まではなんとなくごみを分別したり捨てたりしていたけど、こうした一つ一つの行動が環境を守ることにつながるんだと思うようになりました。 </div>	
4 振り返りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 4月の自分と比べると、考えるだけではなくて実際に行動するようになったと思いました。分別したり、マイバッグを使ったり、使わないものを「他に使える方法はないか。」と考えたりするようになりました。自分はこれを続けていきたいなと思ったし、こうした活動を他にもする人をどんどん増やすべきだなと思いました。 </div>		

	5 次時に向けての問いを立てる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分たちがやっていることをより多くの人が取り組むようにするには。 </div>	
事後	6 次時までの時間を使って、本時での話し合った内容を整理し自分の考えをもつ。	○ 自分の考えを引き出すために、総合の板書をクラスルームで確認できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 本時の見どころ ★次時の問いの確認 </div>

8-1 板書計画

○○環境プロジェクト

問い これまでの取り組みを通して、自分の考えや行動がどう変わったのだろうか。

(4月)

- ・ごみは出て当たり前
- ・ごみが出ても気にならない
- ・環境破壊を詳しく知らない
- ・中工場にあれだけのごみが出ていたことは知らない。
- ・分別はきちんとしていない
- ・欲しいものはすぐを買っていた。
- ・水が出ていても止めない。
- ・車をいっぱい使っていた。

(11月)

- ・ごみを出す前にできることを考えるようになった。
- =リサイクルショップにもっていく。知り合いにゆずる。本当に欲しいものか考える。できるだけ使い続ける。すぐに捨てずに違う使い道を考える。
- 捨てずに生かす
- ・一つ一つの行動が環境を守ることにしながら考えるようになった。
- ・二酸化炭素が出ないように今やっていることをずっと続けたいと思うようになった。
- ・環境ワールドカフェを通して、より環境を守りたいという思いが強くなった。
- =分別やリサイクルをより行うように。

(これから)

- ・「捨てずに生かす」を忘れずにごみを出さない工夫をし続けたい。
- ・マイバックを使い続ける。
- ・本や服など使わなくなったものはショップへ絶対に持っていこうと思う。
- ・環境ワールドカフェをかいぜんしてより多くの人が環境を守ることを考えるようにしていきたい。

問い

自分たちがやっていることをより多くの人が取り組むようにするには。

9 本時の評価規準と目指す子供の姿

本時の評価規準	目指す子供の姿
<p>【主体的に学習に取り組む態度①】</p> <p>環境を守るために自分の生活を見つめ直したり、環境を守ろうとしている人々の思いや立場に目を向けたりしながら、環境を守ることに対する自分なりの思いや役割を考えようとしている。</p> <p>(行動観察・発言・ノート記述)</p>	<p>○ これまでの学習活動を振り返り、自分自身の考え方や行動にどのような変化があったか、これからどうすべきかについて語り合い、未来の環境を守るために自分はどのような生き方をしていくべきなのかという課題意識をもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月の自分と比べると、考えるだけではなくて実際に行動するようになったと思いまし。分別したり、マイバッグを使ったり、使わないものを「他に使える方法はないか。」と考えたりするようになりました。自分はこれを続けていきたいなと思ったし、こうした活動を他にもする人をどんどん増やすべきだなと思いました。

10 本時の見どころ

- ・ 前時の問い立てをもとに考えた自己の考えと他者の考えを比較することで、思考を広げたり深めたりしている姿。また、自己の変容を生き生きと語り、今後の課題を見出そうとする姿。